

表紙の解説（第10グループ）

秀峰 駒ヶ岳

七飯RCの例会場から一望できる駒ヶ岳は、森町、鹿部町、七飯町にまたがる標高1,131mの活火山で、渡島（おしま）半島のシンボリック存在となっています。

かつては、富士山のような円錐形の山容をしていましたが、5万年～3万年前の大噴火により山頂部分が崩れ落ち、幾度の噴火を経た後、1640年の大噴火により剣ヶ峰、砂原岳といった複数の急峻な頂となだらかな裾野を合わせ持つ現在の姿になったとされています。このため、駒ヶ岳は見る位置によって様々な姿を見せ、四季折々の景色をまったく趣の異なる姿で楽しめるのも魅力の一つとなっています。

その駒ヶ岳をなぞるようにして走る函館本線ですが、北海道新幹線の並行在来線である函館～小樽間の大部分が廃止される可能性が現実味を帯びてきました。北海道新幹線は、新函館北斗～札幌間の延伸工事が進められています。開業時には、並行在来線である函館線・函館～小樽間287.8kmがJR北海道から経営分離される予定で、この区間を鉄道として残すか、バス転換をするかが現在議論されています。函館～長万部間の存廃は未決定で、この問題を話し合う渡島ブロックの会議が2022年8月31日に開かれました。報道各社によりますと、8月31日の会議では、函館市が函館～新函館北斗間の存続を要望。北斗市、七飯町も同意する姿勢を見せました。いっぽう、全線鉄道維持を積極的に主張する自治体はなかったようです。そのため、北海道新幹線札幌延伸後の函館線は、函館～新函館北斗間が第三セクターに移管のうえ鉄道として存続し、新函館北斗～小樽間は廃止してバス転換、という形が現実味を帯びてきました。第10グループの函館・七飯・森・長万部の各クラブは、この鉄道廃止に伴う影響を真っ向から受ける状況が近年訪れることでしょうか。今のうちから地元経済界とともに真剣に考える時期にきているようです。

